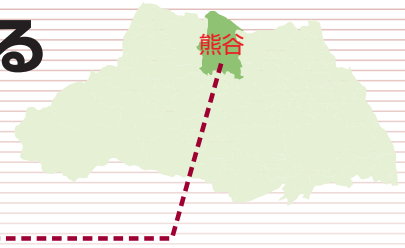


イチ押し

## 地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く 経済リレーインタビュー⑤

熊谷市 富岡 清 市長 (59歳)



北部地域振興交流拠点施設（仮称）の事業化に向けて「いま県と協議中」と話す富岡 清市長

当市は、昔から県北の行政・産業の中心として栄えてきましたが、現在でも県内第3位の年間商品販売額を誇り、製造品出荷額等でも第5位の規模を持っています。特に商都として発展してきた歴史を踏まえながら、商業振興に力を入れた地域経済の活性化を図っているところです。少し先の話になりますが、これから目玉となるのが中心市街地の活性化事業で、現在は国との間でヒアリングを重ねながら計画の策定を進めているところです。中心市街地は、JR熊谷駅から八木橋百貨店辺りまで、街の顔とも言える地域。早期に国から計画の認定を受け、商業の活性化やまちなか居住の促進を図りながら、コンパクトで賑わいあふれる街づくりを進めていくつもりです。並行して、「北部地域振興交流拠点施設（仮称）」の整備に向けて、いま県と当市で協議を行っている最中で、中心市街地活性化事業とセットで同時進行となりますが、近い将来にはシナジー効果で地元経済の活性化に寄与することでしょう。

個別の産業分野に言及しますと、まず商業分野ですが、ご承知の通り昨年3月の東日本

大震災では、市内の商工業者もかなりの影響を受けました。売り上げが減った企業も多かったことから、武蔵野銀行さんをはじめとする金融機関の協力を得て、既に制度化していた「中小企業融資あっせん事業」を即座に拡充し、広く融資を実施したところです。貸付利率を引き下げると同時に、融資限度額を上げたことから好評を得ました。その返済については、本年度から「東日本大震災中小企業融資利子補給事業」を制度化し、融資を受けた企業に利子補給を行っていますので、経営の安定化につながれば、と願っています。

これとは別に商業振興で、昨年5月から市と地元商店街や熊谷青果市場、青果商組合などとの協働で、毎週日曜日にお祭り広場で「星川あおぞら市」を開催しております。中心市街地は高齢化率が高くなっており、郊外の大店まで買物に行くことのできない市民らのため、生活に必要な生鮮野菜を中心に販売するとともに住民の交流の場を創出しております。また、市では「熊谷ブランド物産事業」として“雪くま”、“熊谷ホルどん”、“熊谷染”を商業と観光の両面から推進し、最近では“くま辛”というブランドもデビューしました。くま辛は地場産野菜を使った辛いメニューで、今年6月から市内の飲食店などで提供されています。こうした官民一体となった取り組みを熱い気持ちでさらに盛り上げ、熊谷の名物として広めていきたいと思っております。

工業分野では、他市と同様に企業の誘致を積極的に進めています。2011年度には支援対象となる企業の投資額を1億円から5,000万円に引き下げ、環境にかかわる奨励金のメニューを新設するなどして支援制度を拡充しました。その結果、前年度は17件、9,800万円余りの奨励金を交付し、7社の新規進出を実現させています。引き続き支援制度を有効に活用しながら、さらなる企業誘致と雇用機会の拡大に努めます。また、地域産業の振興のため、産学連携事業として新製品などの開発

に対する補助金を交付するとともに、新産業創出研究会を開催して、中小企業の研究・開発を支援しているところです。

農業分野では、古くから米麦と野菜の栽培が盛んなことから、農業経営の安定を図るために「農業者戸別所得補償制度」を推進してきました。同制度への参加者は県内でもトップクラスで、集落営農組織の法人化などでも県内トップを誇っています。市内の農産物は平成の合併で市域が広がったことで、旧熊谷市内と旧大里町では米麦を主体に、旧妻沼町ではネギやニンジンなどの野菜、旧江南町はブルーベリーやクリなどの果樹と、品目が豊富になりました。そこで産地づくり対策事業を立ち上げ、ブランド野菜栽培の推進やブランド米の種子更新率の向上を図って地産地消、売れる米づくりを進めているところです。これに観光農業、グリーンツーリズムをセットした農業振興を図っていくつもりですが、観光分野では今年大きな出来事がありました。

“聖天様”と市民から親しまれている妻沼聖天山の歓喜院聖天堂が今年7月、国宝に指定されたのです。関東地方の建造物で国宝となったのは5カ所目、埼玉県内では初という、非常に名誉なことから観光面での集客に期待が高まっています。今後は観光の核として「ウェルカム熊谷観光事業」を実施しながら、当市固有の観光資源をPRして集客を図っていきたく考えています。余談ですが、歓喜院聖天堂には多数の精巧な彫刻があり、その中に布袋様と恵比寿様が囲碁を指している珍しい場面があります。そこで、囲碁の本因坊戦を開催できないかと主催者側の毎日新聞社に要望したところ、ご快諾を頂き5月末に第2局が行われました。この対局を観光面でも活用しようと、一週間にわたってイベントを企画しましたが、囲碁ファンだけでなく多くの人々にお越し頂いたところです。

環境分野では、原発への依存問題が話題となっている中、当市では「太陽光発電等普及推進事業」で個人住宅だけでなく、事業所などにも太陽光発電システムや高効率給湯器を設置する費用の助成を行ってきました。震災以降、太陽光発電を導入する市民が増えていることから、本年度は予算を増額して対応していま



毎週日曜日に開催される「星川あおぞら市」には、大勢の買い物客で賑わう

す。同時に、低公害・低燃費軽自動車を購入し、本年度に軽自動車税を納付した市民には、同額の補助金を交付することにしました。環境面での経済活動を活性化させるため、特にアピールしたいのが「熊谷スマートタウン整備事業」です。市内別府5丁目の約1万8,600㎡の用地を活用して、環境共生型の街づくりに取り組んでいくことになり、プロポーザル方式で公募をしている段階ですが、ハウスメーカーなど数社にエントリーをいただいております。本年度中には用地を売却し、2013年度以降に事業が本格化する見込みで、近い将来には全国に自慢できる街が完成することでしょう。

最後に、2019年に国内で初めてラグビーのワールドカップが開催されますが、当市には全国に誇れる施設があり、会場地として立候補していますので、実現に向けてご協力を頂ければと。また、武蔵野銀行さんには私どもと連携して企業融資に柔軟な対応をお願いしたい。併せてぶぎん地域経済研究所さんには、当市が実施したイベントなどでの経済効果を分析して頂ければ助かります。次回は、川口市の岡村幸四郎市長にバトンタッチします。

#### 熊谷市の概要

人口（平成22年国勢調査）	203,180人
世帯数（同上）	75,413世帯
平均年齢（同上）	44.7歳
生産年齢人口比率（同上）	65.4%
面積（同上）	159.88平方キロメートル
名目市内総生産（平成21年度）	8,087億8,600万円
事業所数（平成22年工業統計）	323
製造品出荷額等（同上）	6,955億2,417万円
事業所数（平成21年経済センサス）	9,423
年間商品販売額（平成19年商業統計）	7,838億716万円